



特定非営利活動法人 夢工房
発行責任者 新谷和弘
〒454-0036 名古屋市中川区二女子町6-7
TEL 052-618-5852 FAX 052-618-7582
E-mail nakagawa@yumekb.net
URL www.yumekb.net SHOP : yumekb.net

安心安全な町づくりに貢献し社会に発信していくことを目指して

10月1日よりB型事業所として新たにスタートし、3月末で半年となります。既存の木工部門は現在9名ほどで、様々な道具も最大限活用し売り上げを少しずつではありますが伸ばしています。また新しく始まった作業部門は以下に紹介するように部品組み立ての作業が増えましたが、従業員の皆さんはこれらの作業にも慣れ生産量も増えてきました。

順調にB型に移行できた今、力を入れていきたいこと。それは清掃活動です。中川区内をきれいにし、安心安全な町にしたい、というこの活動は障がいがあっても社会参加し社会に貢献できる存在となることを目指しています。

これは社会の中で手助けのいる弱者の集まりとしての存在でなく、役割を担い全うし、社会において認められ対等に発言できる存在となること、つまりは生活向上、地位向上を目指していく活動につながるものと考えています。このような活動が定着し認知されるようになるまでには長い年月がかかることでしょう。しかしその意義は大きい。コツコツと地道に活動を積み重ねていくことで道はでき広がっていくと考えています。

夢工房は今日も清掃活動に出かけます。写真のようなピンクのビブスを着て清掃活動をしている人を見たらぜひ声をかけてください！

毎週2日間 活動しています！

毎週火曜、水曜の午前中はおそうじ隊の時間です。従業員さん2名と職員1名の3名1組となって夢工房の近くの八熊通りと佐屋街道をそれぞれ1時間づつ清掃活動をしています。2時間で集まるゴミの量

の多いこと！（写真参照）このゴミの量が少なくなる日が来ると信じて、今日も夢工房おそうじ隊はまちをきれいにします！
みなさんもいっしょに清掃しませんか？！



月一回は全員で清掃活動！

今月より20日前後には毎月従業員、職員全員が3チームに分かれいつものコースを清掃活動することになりました。町内会にもご挨拶しピンクの集団を認知してもらえるようになることを目指します！



工賃向上のため作業活動増やしました

10月からはじめた銅線剥離の仕事に加え、昨年末から部品組み立ての作業もはじめました。この作業は少々緻密でみなさん組み立てを習得するのに苦労し「もうやりたくない！」「帰ります」など根を上げる場面もありましたが、今では全員が組み立てできるようになりそのスピードは上がっています。

時間がかかってもみなさんできるようになる、みなさんには力がある。職員も確信をもつことができました。

会員のみなさん、他事業所のみなさん

夢工房といっしょに清掃活動をしませんか？

可能な時間のみで構いません。
ぜひ一緒にまちをきれいにしてすがすがしい気持ちになりましょう！
ご希望、問い合わせはお気軽に夢工房まで！

新商品「バス」と「トロッコ」

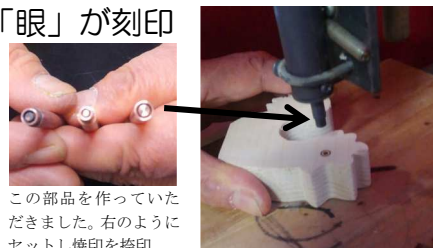
NPO法人名古屋コダーイセンター・もんもの木さまにご提案・アドバイスをいただいて新商品のバスとトロッコが完成しました。小さなお人形や動物などを乗せながらごっこ遊びの世界を楽しめます。均一のクオリティを保つための工夫や従業者さんが作業しやすい道具の工夫など課題もありますが一つ一つ向き合ってよい

商品を作っていきたいと思えます。また更なる新商品の検討もすすめています。ご期待ください！



焼印のパーツ寄贈

木工商品の多くは、焼印または焼きごてで図柄をつけています。いくつかの商品の顔にかく「眼」も焼印を使っています。商品によって大中小の焼印を使い分けています。今までは手じかな材料を使って手作りの焼印で乗り切ってきました。本格的な焼印を合資会社金原製作所（金原講治氏代表）に作っていただきました。複雑な工程を経て緻密に作られた銅製の焼印です。これで安心して正確な「眼」が刻印



この部品を作っていました。右のようにセットし焼印を捺印

障がい者虐殺～ホロコーストのリハーサル

みなさんは1月30日に総合テレビで放映されたE TV特集「それはホロコーストの”リハーサル”だった～障害者虐殺70年目の真実～」をご覧になったでしょうか。600万人以上のユダヤ人犠牲者を出したとされるナチス・ドイツによるホロコースト。しかしその前にいわば”リハーサル”としておよそ30万人の精神や知的に障がいのあるドイツ人らが殺害されていた、という内容です。障がいのある人々がそのような形で「利用」されていた事実に衝撃を受けますが、さらに驚くことはこれらの殺害はヒトラー政権に強要されて行われたわけではなくむしろ医学界の中にあつた優性思想にヒトラー政権が乗じたということです。

当時社会学、医学界の中で大きな支持を得ていた「優生学」。ダーウィンの「劣性は淘汰され優性遺伝子が生き残る。」という進化論を背景に「劣性の遺伝子は抹消し優性遺伝で人類を進歩させよう」という優性思想。これに基づきいわゆる「断種法」は当時アメリカを筆頭にドイツのみならずヨーロッパのほとんどの国で成立し日本でも「優生保護法」として、

制定されます。これにより国家による人種差別、人権侵害、強制断種が実施され、日本においてもハンセン病患者に対する強制隔離、精神薄弱者等も含む強制断種が実施されました。

人間を「尊厳」においてではなく「価値」の優劣において理解する、しかもその「価値」は生産性や見た目など限定された「価値」であるということ。恐ろしいと思うことは大きな支持を得ている考え方の中にあつてはそれが当たり前であると誰もが思うこと。命の価値を考える時、何が本当に正しいのか、他人の価値観から離れ自分に問いかけることが必要と感じます。

命の価値、重みは人種の別、心身にどんな特徴があろうと同じはずです。番組の中で日本障害者協会の藤井克徳さんは「社会的弱者や障害者に‘前ぶれ’‘問題’が起きやすい。それに気が付かなくてはなりません」と言っています。

今、日本にも大きな変化の流れがあります。弱者の尊厳が軽んじられることにつながらないか、何が本当に正しいのか見極め判断していく力が問われていると感じます。

ご寄付、ボランティア協力いただいた皆さま

温かいご理解、ご支援心より感謝いたします。

<ご寄付および寄贈>金原講治 <ボランティア協力>木村観代

今後のイベント予定

○毎月12日 甚目寺観音バザー ○毎月第一土曜日 地球の子マルシェ（南生協病院） ○3月11日 明治安

田生命×MO-YA-CO UNIQUE PRODUCT! Vol3（明治安田生命名古屋ビル）

お時間あればぜひお立ち寄りを！



各400円

9条ストラップ
売れています！

みなさんも
いかがですか？